

営業時間 祭日も営業中!

月曜日～土曜日 朝八時～夕方五時

祭日 朝八時～十二時

(祭日の配達業務は行っておりません)

日曜日は休業日とさせていただきます。

100円で

夢をかなえる方法

『たった百円で夢をかなえることができる』

『あなたがどうしますか?』

突然の神様。

では、まずはこんな想像をしてください。あなたの目の前に、神様が現れて、こう言いました。

「お前がどうしてもやりたいけど、できない行動は、何だ?」

あなたは答えます。

「好きなコに話しかけたいんです」

「新しい仕事を始めたいです」

「資格のための勉強をしたいです」

神様は言いました。

「では、どうしてそれを行動にしない?」

「いや、何となく…。それにいつのまにか、忘れちゃうんですよね…」

「だったら、百円さえ払えば、その行動力を生ませてやるよ!」

「ええっ?」

いかがでしょう。

あなたが前からやりたかったけど、なんだか行動にできないこと。それを百円払えば、今すぐに必ず行動にできる。その場合、あなたはそのお金を、払いますか?」

◆その魔法は、存在する。

これ、多くの方が「はい!」と答えるはず。百円で済むなら!」と答えるはず。

実際に「行動的な人間になる方法」などの本は千五百円ほどで売ってしまし、そういう啓発セミナーに行ったら、軽く1万円は飛びましょう。

だったら、百円くらい安いものだと

思うはず。では、それを現実に行きましょう。方法はカンタンです。まず、百円を取り出してください。そしてそれを「外に投げ捨ててください」。それだけ、です。

◆あなたの反応は?

「えっ! そんなの、もったいない! できません!」と思いませんか?」

でも、断言します。

「これさえ行えば、きっとその行動をすることができるようになります。心理学では「認知的不協和理論」というものがあります。人間が心の中で矛盾を抱くと、その状態がイヤなため、その矛盾を解消する方向に考え方が変わることになります。

たとえば恋人がダメ男であるほど、深くハマってしまうのは、それが原因。

「何で私はこんなに苦労してるんだろ?」↓「それは、この相手のことがそれだけ好きだからだ!」

「と思考を変えるわけですね。これは百円を捨てるのと同じ。」

「百円を自分から捨ててしまった!」というの、とにかく「お金は大切に」という常識からしたら、考えられないレベルの矛盾となるはず。このまま何もなかったら、ずっとイヤな気持ちを抱えることになり。だからここで、

「行動するためのお金だったんだ!」↓「だったら行動しない!」と思えるわけです。

◆捨てるのが、

試みに。もしはあてもないの、サイフから百円を取りだしてさ。そしてそれを、「捨てる」のです。道路でも公園でも、どこでも構いません。それと同時に、「やりたいこ

と」を念じてください。

好きなコに声をかける。今日中に、仕事をする。今夜中に、勉強を終える。

これだけで、確実に行動できるはず。百円は、必要経費です。

◆もったいない?

さらに「もったいない!」という人は、こう言います。

あなたは東京から大阪に行くのに、夕夕だからといって、歩いていきます。各駅の純行に乗ります。夜行バスや新幹線で行くはず。人は、お金の時間を買っているのです。

また勉強に集中するために、喫茶店に入る人もいれば、電車賃を払って、図書館などに行く人もいます。

また重病で死にそうなときに、「1千万円払えば治る」と言ったら、「そんな、もったいない!」と言つ人はいないでしょう。

繰り返します。

お金と時間は、交換できます。そして同時に、時間は、お金よりずっとずっと価値が高いのです。

「だったら、充実した行動や、やりたかったことのために、百円くらい安いと思いませんか?」いえ、千円や1万円でも、安いと思いませんか?」捨てたお金は、少くとも僕にはありません。ギリギリの額として百円なのです。人間として小さくして申し訳ありません。

◆お金は、消えませぬ。

また、「お金を捨てる」「社会の循環からドロップアウトさせる」とい

うのが罪悪感につながる人もいます。しかし、そのお金、きつと誰かが拾います。お金に困った方が生活の足しにするかもしれません。そういう意味で、募金と同じです。

もしくは小さな子供が拾って、

「わーい! これ大好きな絵本を買えるよ、ママ!」

「良かったわねえ」

「おまわりさんに届けるね、ボク!」

「あら、いいコね」

「なんて風に話が進むかもしれませぬ。いすれにしても、ほのぼのドラマです。」

そう考えると、お金はいつか確実に循環されるのです。だから、罪悪感を抱く必要はありません。とはいえ罪悪感がまったくないと、それはそれで行動につながりませんので、多少の罪悪感はあるてもOKです。

◆捨てるなくても…?

逆に言えば、「お金さえ捨てればやること」ができる。と思うと、少しだけ気持ち落ち着くのではないでしょう。か。たとえ撃たなくても、護身用のピストルを持っていると、なんだか強くなったような気持ちになるのと同じかもしれません。また「百円すらもかけることができない」のなら、あなたのその行動や夢は、あなたにとって百円の価値すらもない、そこまで強く願っていたものでもない、ということになります。であれば、気持ちの切り替えもできるのではないのでしょうか。

「やりたいなあ…。でも、やれないなあ…」なんて、あまいな気持ちのままボヤッとしているより、ずっとずっと前に進むことができるはず。どうか覚えておいてください。

何か「どうしてもやりたい!」と思つたときは、「百円を捨てる」こと。それすらできないなら、それは百円の価値もない夢だったということ。たった百円。それだけで、あなたの物語はいくらかも始まっていくんですよ。

◆わたし。

詩人であるダゴールは、こんな言葉

を残しました。

『花は、花びらの全部を失うことで、果実を残す。』

お金は確かに大切なもの。あなたが積み上げてきたものは、確かに大事なものでしょう。でも、それよりもっと重要なものは、今この瞬間のあなたの気持ちなんです。それをきちんと受け入れて、行動にしてください。

そしてここからウラ話です。

思うに「神社へのお賽銭」というのは、その意味もあつたのかもしれない。願いをかなえるために、お金をかけた。だから、願いのために、行動しない。このような心理で成り立っていたのではないのでしょうか。

しかしただ単に、「これで、神様がその夢をかなえてくれるかも」と考えてしまう人も多いもの。その場合、「取引」や「買物」として認識してしまっています。これでは不協和は生まれません。

「だから行動しないで大丈夫」という言い訳にさえなります。すなわち、あなたがそういうタイプの人の場合、お賽銭として払うなら、路上に捨てた方が、自分の夢のために、ずっとずっと有効なのです。

ちなみに、この百円ですが、やはり本人にとって「抵抗のある額」でないという意味がありません。実際、ビルゲイツの時給は1250万円だそうです。普通の方の時給がとてあえず八百円だとすると、百円はその8分の1。

すなわちビルゲイツにとっては、百五十万円くらいになります。……ビルゲイツにこの方法を教えて、そのそばで待機したい。そんなことをインドレスで考える自分自身に切なさを感じつつ、ここまで読んでくださった、本当にありがとうございます。

今回はインターネットサイト「心理学ステーション」より引用させていただきます。 <http://sini.net/>

今年も残すところあと2ヶ月と少しです。新年のお参りの時に1万円札を奮発したら、願いが叶うかもしれませぬ。それともう一つ、怪しい宗教団体やお金の団体の場合は、この手法を絡めてお金を奪うという戦略をしています。気をつけましょう。

のんびり日記

今月の頭に、次女が入院しました。病名は川崎病、高熱が出て命にもかかる病気がしく、済生会病院で診察したらその日に入院ということになりました。

10日間ほど入院してよく効く薬を約二日かけて点滴。治療の甲斐あって、1週間ほどで熱も平熱になりました。現在、無事退院してすっかり元通りです。

下関市は3歳以下の子供は医療費が無料になるということで、結局入院費は全部で六千円ちょっとでした。1日あたり600円くらい、これは病院の食事代や服を借りたのでその代金になります。

市役所ってありがたいなあと思つた。(とはいえ、税金は高いですけど、)

話は変わりますが、今回の記事は禁煙にも使えます。まず千円札を用意します。

太目の油性ペンでそのお札に「3箱分のタバコ」と大きな字で書きま

ライターでその千円札に火をつけます。燃えているお金をじっと見続けます。で燃えている間中こうい

「タバコを吸うのはお札に火をつけているのだな、馬鹿馬鹿しい、もう二度と吸わないぞ」

燃え尽きるまで唱え続けてください。

実際に燃やさなくても、この文章を読んだだけで禁煙する気持ちになりますか?

タバコを吸うというのは、お札に火をつけて燃やしているのと同じこと

ちなみに死ぬまで30年間タバコを一日1箱吸うなら、約350万円のお金に火をつけて燃やしていることになり。もったいないですね。